

「奈良絵本」の一絵師考（続）

秋谷治

はじめに

平成十七年度中世文学会春季大会において発表し、平成十九年十二月発行「言語文化」四十四号においてその一部を紹介した、「奈良絵本」の一絵師に関して、本稿においても、検討したい。「言語文化」誌において述べたように「奈良絵本」の概念について再検討を迫るこの絵師の作品群、すなわち従来の「奈良絵本」が室町時代の物語を中心とする物語に限られていたのに対して、この絵師が物語の絵巻のみならず、風俗絵巻や屏風絵をも描いているらしいことを指摘できる作品群の出現は、古書肆界で使用されてきた呼称を、漠然と踏襲している国文学、美術史の研究において疑念を提出していくことになるであろう。本稿においてその答えをただちに用意することは考えられず、疑義を入れるのも躊躇されるが、やはり拘わらざるを得ない事柄であろう。そのために本稿においても、その風俗絵巻の二本を示していきたい。

更にこの一連の絵巻の絵師の活躍期を限定できる資料をとりあげたい。前稿「言語文化」でとりあげたチェスター・ビーティ・ライブラリー所蔵の『江島物語絵巻』及び『俵藤太物語絵巻』は十七世紀中葉もしくは後葉の制作にかかると推定される。この手の豪華本仕立ての極彩色の「奈良絵本」の多くは寛文延宝頃制作の伝本と古書肆界においても国文学界においても一般

的に推定認定されている。「奈良絵本」はその卷子本という整った装幀の伝本においても奥書を有しているものは皆無と言っても過ちはない程、それを記している伝本は殆どなく、朝倉重賢と詞書の書写者名が僅かに伝えられている位である。したがって制作年時の推定に確証が認められるものはないと言っても大きな誤りにはならないであろう。そうした状況の中で本稿で同一絵師の描いた作と認められる東洋大学図書館所蔵『長恨歌』三巻三帖¹の表紙裏に認められる俳書の刊本の零葉が存在することは、単に当該『長恨歌』の制作時期を推定させるのみならず、この絵師の活躍時期を示すことになるであろう。東洋大本『長恨歌』は胡蝶装の縦型本であるが、先の絵巻と同一絵師の手にかかる伝本と認定できれば、更にそれらの絵巻の制作年代を推定できることに繋がるであろう。又、『江島物語絵巻』が石川透氏が指摘される朝倉重賢の手にかかわっているのならば、朝倉重賢の活躍期とも関連してくることになるであろう。徳田和夫氏「奈良絵巻の一筆者」『お伽草子研究』（昭六十三 三弥井書店）及び石川透氏「奈良絵本・絵巻の生成」（平十五 三弥井書店）において検討されている重賢の活躍期（更には出自来歴、比定すべき人物等）とも関連してくるであろう。先走りにその年代を述べれば従来の推定年代、即ち十七世紀中葉、後葉と推定して大過はないと考えられる。その根拠の一つになる可能性をもった伝本として東洋大学蔵『長恨歌』（及びその表紙裏の零葉数葉）の価値を指摘していきたい。

1

ケルン東洋美術館蔵『諸礼つくし』一卷は昭四十九年毎日新聞社刊『近代風俗図巻』第三巻において初めて全図版紹介され、平成九年東武美術館・福岡市美術館・山形美術館において公開され、この折の図録『ケルン東洋美術館展』にも全図版が紹介されている詞書のない全十五図に数えられる卷子本仕立ての作品である。形態は詞章のない絵巻物と言ってもよいであろう一卷である。この絵巻は『近代風俗図巻』の当該『諸礼つくし』の解説者檜崎宗重氏によれば、「大和絵風の画家であり、製作の年代は一六五〇年ごろと考えてよいであろう」と推定されている。原本未見のまま、同書の装幀について記されている紙本着色、三四・五×七五五（センチメートル筆者補）から推測すると、前稿において検討した三本とはほぼ同じ高さで、表紙

については不明である。

この絵巻には、ほぼ同じ顔の人物が幾十となく描かれている顕著な特徴に出食わされる。そのパターンは五指にあまるのであるが、なかでも最も目につくのが、「奈良絵本」の一絵師考「言語文化」第四十四号（平十九）においても初めに紹介した横顔における類似表現である。（『諸礼つくし』の図版を以下に掲げ、キャプションにおいてShoと略す）



Sho-1



Sho-2



E-1



E-2

因みに、『江島物語絵巻』（以下Eとキャプションに記す）の酷似していると判断される人物の横顔を掲げる。大きな眼球と眼裂、頬の脹らんだ線、鼻の彎曲具合、厚い口唇、人中線をはっきりと示さない描き方等、四図においてよく似ていることが看取されるのではないであろうか。先考において『江島物語絵巻』『倭藤太物語絵巻』『嵯峨祭絵巻』において、これらの横顔が偶々それぞれだった一つずつ見出されるのではなく、類似した横顔がそれぞれの絵巻において複数見出せることを述べたが、『諸礼つくし』においても多数見出すことができる。座敷に座する上下姿の侍や馬上の武士、中庭の従者（Sho4）、御簾内に畏まる公家や稚児、相撲人（Sho5）、烏帽子に直垂の武家、楽師（Sho6）、更に僧侶や女性の横顔（Sho3）にもこの特徴ある横顔が見出せるのである。

以上のように並べて見るならば、多少の相異は認められるとしても、相似しているというべきではないであろうか。単に『諸礼つくし』同志の比較のみならず、先に掲出の『江島物語絵巻』他二絵巻との比較においてもSho3、4、5、6と相似しているといえるのではないであろうか。では、同一絵師によるのではなく模倣の可能性（弟子による亜流ともいうべき類似の



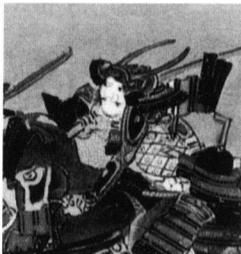
Sho-7



E-3

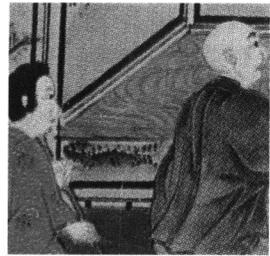


E-4



E-5

可能性もあろうが、その判別は目下不可能で、この絵師の制作にかかわる現存伝本は目下判断できる作品で絵巻物を中心として約二十点数えられるので、更に少なくとも三、四十点は存在するのではないかと臆測するのであるが、それらを可能な限り比較していくべきであろうから、今後の課題であろう。はどうか。全くないとはいえないであろうが、「奈良絵本」は多量に制作された工芸的性格のものであり、芸術的作品の模倣、贋造とは一線を画すものであり、むしろ目下は類似性を数多く指摘していくことが重要な作業目標と考えるので、模倣云々の問題は当面遙か先の検討課題と考えたい。否、この一人物の横顔の酷似性のみ留まるのではなく、他の人物の相似た容貌が他に類似点として見出せることを挙げていくことが、模倣云々に拘泥



Sho-3



Sho-4



Sho-5



Sho-6

する必要性を吹き払っていくと考えられるので、そうした類似の顔を見ていきたい。

Sho7、E3・4・5は鳥兜や兜をかぶり髭を生やしているので類型的に描かれやすいので区別が難しいが、『諸礼つくし』の楽師と『江島物語絵巻』の武士達の容貌は似ているといわねばならない。更に斜めに向けられた顔のはっきりとした目の特徴において、顔のラインが描かれる側の目―『諸礼つくし』では右目(向って左の目)が若干下を見、左目(向って右の目)が真横を見ているという両眼の視線のズレが看取される。『江島物語絵巻』においても三図とも同様である。この特徴は「奈良絵本の一絵師小考」において『依藤太物語絵巻』と『江島物語絵巻』の比較によって、この絵師の特徴の一つとして別出しておいたことである。このように、容貌が単に形のみに似ているという類似点に留まらず、視線という仄かな表情においても共通点を示しているのである。微細な点においても同一描法によって描かれていることは模倣のレベルを凌いでいるといふべきで、贋造や亜流の作ではなく、同一絵師によって大量に描かれた作の一つ一つであるといえるのではないであろうか。

正面を向いた顔の男がこの絵師の手になる絵巻物には頻出し、『諸礼つくし』においても数ヶ所描かれている。それらは何れも類型的で丸顔で宙を見る目つきである。以下の二点(Sho8・9)は『依藤太物語絵巻』(以下キャブションでTと称す)の正面顔の人物と似ているといえないであろうか。虚空を見る目、山型の眉も心なしか類似しているよう。この正面顔も他の絵巻との照合に際し指標になると考えられる。因みにチェスター・ピーティ・ライブラリー蔵竹取物語絵巻(以下キャブションでXと記す)より正面顔の一例を参考に掲げる。その違いは歴然としているのではないであろうか。



Sho-8



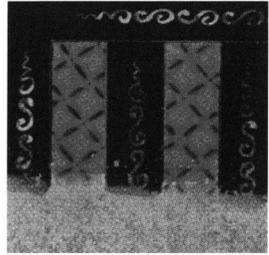
Sho-9



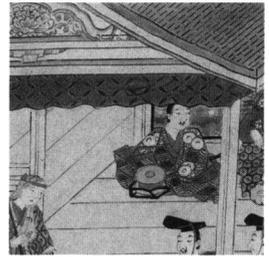
T



X



Sho-10



Sho-11

男女の衣・袴他にも描かれている。他の絵巻には殆ど見られないので、この絵師の作品と考えていく上で指標になるのではないであろうか。

以上の主な類似点を挙げてきたことで、チェスター・ピーティ・ライブラリー蔵『江島物語絵巻』『俵藤太絵巻』及び『嵯峨祭絵巻』とケルン東洋美術館蔵『諸礼つくし』絵巻とが同筆の絵師もしくは工房によって描かれたものと推定することができるとはならないであろうか。もし四点が同筆であるとすれば、前二者は物語絵巻であり後二者は風俗絵巻であるので、同一絵師が両方に携わっていたことになり、奈良絵本という呼称で従来のように前二者を呼んで良いのであろうか、又後者をも呼んで良いのであろうか、という大きな問題が発生する。一九九三年から翌年にかけて「おもしろの花の京——洛中洛外図の時代——」展が東京・名古屋・北九州で平安建都一二〇〇年記念協会後援の下でNHKによって開催された。その同名の図録の第十九番に『十二月風俗図巻』一卷が掲載されている。原画未見であるが、ここで問題にしている絵師の手になるものと推定できる鮮明さの三図が寸見でき、Sho1・2、T1と共通する横顔の人物が三図ともに描き込まれている。本論未参照。紙幅が「三一・三×五四八・五」とあり、その縦寸法や人物の背丈や着彩の色調も共通した特徴を示している。したがって、この絵師は風俗絵巻をも三点以上描いていたとみて大過はないであろう。但し、すやり霞の描法が『諸礼つくし』(Sho10の下部参照)『嵯峨祭絵巻』とも異なるのである。前稿において、この二巻は物語絵巻と異なる描き方、すなわち、金砂子を散らしながら界線を設けず波うつような霞を描いており、物語絵巻が金線及び墨線の界線を設けているとは異なりジャンル

この他、点景において、比較例示しないが滝や波・襖絵・松・柱や板等の描き方においても類似している。

輪違い(又は七宝繋ぎ)の文様が『俵藤太物語絵巻』(においては主人公の狩衣の文様として全巻の挿絵において一貫している)・『江島物語絵巻』・『嵯峨祭絵巻』にも特徴的に表されることに、先考で留意していたように、この絵巻においても頻出している。幔幕(Sho10)・水引幕(Sho11)・

意識が認められるのではと推測した。『十二月月風俗絵巻』にも界線はない。しかし波うつ霞ではなく、物語絵巻と似た、絵巻の天地に分かれた帯状の霞と、上部に棚引く霞との二法で描かれる。金砂子を散らす技法は全ての絵巻に共通しているが、何故描き分けるのか今後の課題である。すやり霞の様式によって絵師を推定するのは慎重でなければならぬであろう。ともかくも、風俗絵巻や屏風絵にも手を染めている絵師の姿が浮かび上がってきたので、物語絵巻の奈良絵本として追い求めていくのみでは全貌を究めることは難しいであろう。

2

東洋大学図書館蔵『長恨歌』三巻三帖（キャプションにChōと記す）も本論で追求している絵師もしくはその工房で描かれたものと推定してみたい。

Chō1の横顔はShō1・2・3・4・5・6やE1・2のそれと同じ特徴を持ち、同類と考えられよう。この本にはあまりこのタイプの横顔の人物は登場しないが典型的な指標と考えてきたものと一致するのである。Chō2・3はShō7、E3・4・5と極めて似た表情といえないであろうか。兎に隠された顔であるが、開いた眼の明るい眼つき、大きく開けた口も類似しているといえよう。この作品は三帖の胡蝶装の冊子体で今まで扱ってきた絵巻物と装幀は異なるが（縦横ともにほぼ同寸の、縦型本であるパリ国立東洋図書館蔵『硯破』³）も同一絵師の手になるものと考えられ（以下Suとキャプションに記



Cho-1



Cho-2



Cho-3



Su

す) Cho1、Sho1他の横顔の一つを提示しておく)装幀の違いも問題とはならない。むしろ絵巻物のみでなく、複数の冊子にも手を染めていたことに留意して探査していかねばならない。

何れもこの絵師の手になるとするならば『長恨歌』を得たことで指標にしていける特徴として、花を大きく特出させたように描くことを新たに指摘したい。

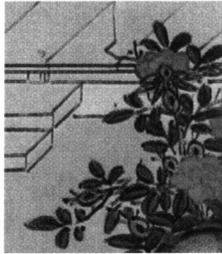
『長恨歌』・『江島物語絵巻』・『諸礼つくし』には牡丹や雪花が一際大きく描かれ(Cho4・E6・Sho12)、この絵師特有の描法で、人物や事物とのバランスがとれてないこともこの絵師の特徴と考えられ、こうした花の描法も留意していくべきであろう(Cho4に絵全体における花のバランスを見ることができる)。すやり霞は金砂子散らしに金線と墨線で二重に界線を描く方法で(Cho4、Cho4参照) 物語絵巻と同じ方法である。但し、パリ本『硯破』は金砂子散らしを波うつすやり霞として仕上げており、先の風俗絵巻(例Sho10)にも通じる指標で、風俗絵巻に限定したすやり霞の描法と考えてきたがそうとも言切れないことになる。



Cho-4



E-6



Sho-12



Cho-4'

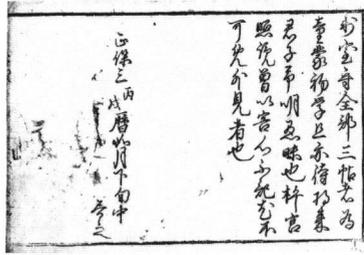
3

『長恨歌』が懸案の絵師の手にかかるものと推定しえるとするならば、この本の装幀には注目すべきことがある。表紙が破損

して表紙と見返しとの間の糊が剝がれており、その内に表紙の半分程の大きさの半丁分の紙片が挟まれていることである。第一帖表紙、第二帖表紙及び裏表紙、第三帖裏表紙にそれぞれ一片ずつ、合計四枚の楮紙の零葉が挿入されている。これらは表紙から取り出せる程表紙が剝がれているものと、剝がれ目から覗けるのみのものとあるが、何れも半葉のみであるが、俳諧論書の『水室守』の零葉で皆異なる頁分である。この四葉は版心や文字もほぼ判読可能であるが、破損を佈れ、同版の『水室守』を別に調査することで代替させていただく。東京大学総合図書館蔵の横本『水室守』^①によって照応してみると、三巻三冊本の内、下巻十三才が『長恨歌』第一帖表紙の内の零葉と対応、下巻十六才が『長恨歌』第二帖表紙の内の零葉と対応、下巻四才が『長恨歌』第二帖裏表紙の内の零葉と対応、下巻十二才が『長恨歌』第三帖裏表紙の内の零葉と対応する。

『長恨歌』に挿しはされた『水室守』の零葉四葉は連続する断簡ではないが、何れも下巻のしかも比較的近い位置にある零葉であるので、これらが挿入された時期は断定しかねるものの、別々に別時点に挟まれたものではないであろう。裏打ち紙として用いられたのであろうがサイズが合わなく、表紙の厚味を増すための補強紙としても半葉一紙のみで補いの役を果たしているとは言い難い。その目的、挿入時ともに不明な紙片を以て資料としていくのは甚だ心許ない立論になるのではあるが、貴重な手掛かりとして一つの推論を模索してみたい。

『水室守』は安原貞室正章による俳諧論書で、名高い俳書『毛吹草』論難の書であり、正保三年（一六四六年）刊行された。大本五巻五冊本と横本三巻三冊本とが刊行されている。何れも刊記は正保三年で、どちらが初版か二説に分かれるが、『近世文学資料類従 古俳諧編三八 非無漏毛理／巨保理射魔』（勉誠社 昭50）が書誌の研究書で加藤定彦氏の詳細な検討によれば横本は再版本であるらしい。初版の大本に対し「さらに普及徹底を図って出された廉価版に横本があり、これにはかなりの改訂が施されている。」^②とあるが、同年内の刊行か、時を隔てての刊行か言及がない。貞室は寛文十三年（一六七三年）没^③である。この『水室守』の零葉が『長恨歌』の原装時から挿入されたものと仮定するならば、『水室守』の横本の再版時より後になることは言うまでもない。問題は再版時がいつかということで、『長恨歌』装幀時の上限が定まるのである。貞室が改訂しているらしいので貞室生前に横本『水室守』が刊行されていたとすれば、寛文十三年までを下限として考慮していかねばならない。生前に刊行しているのだから横本『水室守』は正保三年をあまり隔たるところなく刊行されたものと考えたい。



東大本「水室寺」下巻卷末 59 オ



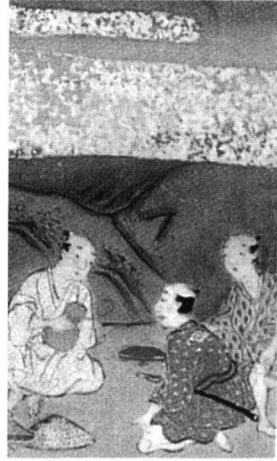
同上 下 12ウ

が、そうした根拠のない推定よりも、横本『水室守』の知見により、原装時からの挿入とするならば正保三年を上限とする何年かの後（反古として使用される迄の間隔ほどの位であるるか）東洋大学図書館蔵『長恨歌』は成立したのである。日本て編まれた長恨歌伝は多数あるが、当該本と本文を同じくする作品は未だ見当たらず、類似本文による検証も不可能である現状においては、上限正保三年下限寛文十三年（すなわち一六四六年より一六七三年の間）に横本『水室守』が行され、その刊行後『長恨歌』が装幀されたという手掛かりが得られたということ満足するしか手だてはない。尚、東洋大本には「ちやうごんか 三冊／貞享頃」と書かれた洋紙片が桐箱に入れられた当該本とともに入れられてある。いつ誰によって判定されたメモ書きか不明であり貞享の没年を考慮した推定か否かも判断し難いが、そこまで下げるべきか否かはともかく、最大の下限と参考にしておくべきではあるう。

先に『十二月風俗図巻』（キャプシオンに「J」と記す）について触れたが、その図録に高津古文化会館学芸員の兩宮睦子氏によると思われるキャプシオンがあり、「寛永年頃の行事風俗を描いているところから、それより少し隔たった時期の作品と思われる」とあることも参考にしておくべきであろう。先に拙稿「奈良絵本」の一絵師小考⁸⁾において、『江島物語絵巻』の成立に関連する延宝期の状況について触れ、十七世紀後半頃に制作されたと推測した。諸書の状況から少しづつこの絵師の活躍期が仄かに見えてくるかに思われる⁹⁾。

註

- (1) 『東洋大学所蔵資料図録』(学校法人 東洋大学 一九九五
年) 二二頁・二三頁。
- (2) 『秘蔵日本美術大観』第五卷「チェスター・ピーティ・ライ
ブラリー」
- (3) 古典文庫第四九二冊、小杉恵子・ジャクリヌ・ビジョー編
『よこふえ・すゝりわり』(古典文庫 一九八七年)
- (4) 酒竹文庫蔵『誹諧 水室守 貞室翁 上(中・下)』(請求番
号A00—酒竹—三二〇五)、横本袋綴 一三・八×二〇・
七厘。
- (5) 『近世文学資料類従 古俳諧編三八 非無漏毛理/巨保理射
魔』二八五頁。



Ju

- (6) 伊地知鉄男他編『俳諧大辞典』貞室の項。
- (7) NHK刊『おもしろの花の京——洛中洛外図の時代——』
(一九九三年)。
- (8) 『言語文化』第四四号(一橋大学語学研究室 二〇〇七年)
六四頁。
- (9) 熊倉功夫編『日本の近世 十一 伝統芸能の展開』(中央公論
社 一九九三)の口絵(同書一八頁・一九頁)に『諸礼つく
し』のいけばなと花道の場面が掲げられ、キャプションに
「こうした一八世紀の遊芸の様子を描いたもので」とあるが、
上述のように一七世紀の作品と考えたい。

写真掲載の御許可を頂きました東京大学総合図書館、チェスター・ビーティ・ライブラリー、パリ国立東洋図書館、東洋大学図書館、NHK出版に厚く御礼申し上げます。

(あきや おさむ／言語社会研究科教授)